

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371200649
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	名古屋南ケアセンターそよ風
訪問調査日	平成21年3月10日
評価確定日	平成21年4月14日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2371200649		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	名古屋南ケアセンターそよ風		
所在地	名古屋市南区白雲町6番地 (電話) 052-819-6684		

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年3月10日	評価確定日	平成21年4月14日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)	14年7月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	(有) 100,000 円	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) 500,000 円	有りの場合償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要(平成21年2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	6名	要介護2	3名			
要介護3	5名	要介護4	3名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	87.1 歳	最低	95 歳	最高	67 歳
協力医療機関名	医療法人緑翔会 小松病院					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住居地域の一角にあり、近くには笠寺観音、大きな公園があり、自然豊かな環境にある。1階はデイサービスセンター、2階はグループホームとなっている。ホームは綺麗に掃除が行き届いており、窓も大きく明るい雰囲気である。春には居室の窓から桜を見ることができ、四季を感じられる。廊下やリビングには、入居者の作品や行事の写真が飾られている。入居者同士、互いに支え合い仲むつまじい姿が見られた。協力病院は24時間対応可能であり、また、看護師が職員として配置され毎日の健康管理を行なっている。入居者の希望に添って買い物、喫茶店、外食など個別対応をしている。地域の行事に参加したり、ホームの行事に招待したり良好な関係が築かれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目である鍵をかけないケアの実践については、職員や家族と話し合いがされたが、玄関の鍵を開錠することの希望はなかった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価を実施することにより、気がつかなかったところ、細かなところまで気をつけなければと思い、見直しの良い機会になった。外部評価の結果については、ケア会議、検討会議を開き改善に向け取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2カ月に1回開催されている。前回の会ではセンター長、管理者の紹介や出席者の自己紹介に始まり、ホームの様子、年間予定、名古屋市ユーザー評価について報告がされた。職員紹介の後、質疑応答があり、町内会長より災害についての過去の例を含めて話をいただいた。家族同士で意見交換も行なわれ有意義な会となった。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時や家族面談の時に意見、不満、苦情を聞き内容を検討している。重要事項説明書にホームの担当者以外にも、南区介護保険課、名古屋市介護保険課、愛知県国保連合会を明示している。ホームでは、苦情相談担当者を明記し入居者、家族の分かりやすい所に掲示している。また、そよ風グループでは「介護なんでも相談室」を開設している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会しており、地域の盆踊り、ラジオ体操、祭りなど入居者が参加できる行事を確認し参加している。町内会の運動会や笠寺観音境内で行われた子育てサロンにも参加した。小学生や幼稚園とのふれあい学習、中学生の職場体験などの受け入れも行なっている。近隣の方とは散歩時に挨拶を交わしたり、地域の商店を常時利用するなど良好な関係が築かれている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「入居者同志、共に支え合い、それぞれの個性能力を發揮 しながら、自由に喜びのある生活をおくる」を理念とし、 実際に入居者同志、共に支え合い自由に生活をしている。 何事も入居者が主体（基本）であることを職員はいつも心 がけ支援をしている。		地域密着型サービスとしての役割を理解し ており、地域との関わりを大切に思い、積 極的に取り組んでいる。理念の内容にも地 域との関わりについて織り込むことを検討 されることに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	いつでも誰にでも見やすいように理念は玄関、ホール、事 務所や洗面所に掲示してある。部所会議や日々の生活の中 で問題点が見つかった時など、理念を振り返り常に実践に 向けた取り組みを行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	町内会に入会しており、地域の盆踊り、ラジオ体操、祭り など入居者が参加できる行事に参加している。町内会の運 動会や笠寺観音境内で行なわれた子育てサロンにも参加し た。小学生や幼稚園とのふれあい学習、中学生の職場体験 等の受け入れも行なっている。近隣の方とは、散歩時に挨拶 を交わしたり、地域の商店を常時利用するなど良好な関 係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価の改善項目については、職員と家族と話し合い の結果、玄関の鍵を開けることの希望はなかった。職員は 自己評価を実施することにより、気づかなかったところ、 細かなところまで気をつけなければと思い、見直しのよい 機会になった。外部評価の結果については、ケア会議検討 会議を開き改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1回開催されている。前回の会ではセンター長、管理者の紹介、出席者の自己紹介に始まりホームの様子、年間予定、名古屋市ユーザー評価について報告がされた。職員紹介の後、質疑応答があり町内会長より災害についての過去の例を含めて話をしていただいた。家族同士で意見交換も行なわれ有意義な会となった。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市役所の介護保険担当課には、足をよく運び相談にのってもらいアドバイスをいただく等サービスの質の向上に取り組んでいる。また、担当者もホームを訪問し現状を見てもらっている。運営推進会議には、区政協力委員が出席している。名古屋市が実施している「認知症介護実践者研修」の実習施設にもなっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には、声をかけ入居者の状況や様子を説明している。また、3カ月に1回家族との面談を行い近況報告をしている。月1回ホーム便り「そよ風通信」を発行している。便りには行事予定、入居者の様子が写真で掲載されている。入居者に心身等状況変化があった場合は、来訪時以外にも連絡している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時や家族面談の時に意見、不満、苦情を聞き内容を検討している。重要事項説明書にホームの担当者以外にも、南区介護保険課、名古屋市介護保険課、愛知県国民健康保険団体連合会を明示している。ホームには苦情相談担当者を明記し、入居者や家族に分かりやすい所に掲示している。また、そよ風グループでは、「介護なんでも相談室」を開設している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動は少なく、職員はユニットで固定し担当制を設けているが、職員は2ユニット18名を意識してケアに当たるよう心がけている。1,2階合同で行事を行い交流を図っている。新しい職員が入った時はまず入居者とのコミュニケーションを大切に思い、1週間は入居者と関わり、その後、管理者より仕事について指導を受けている。</p>		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	不定期であるが、ホーム内の勉強会はある。今現場で管理者が必要と思った時には、その都度その日の内に勉強会を行なっている。外部研修については、希望者は参加できる体制となっており、受講後は研修報告書を提出し部所会議で報告情報を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市南東部グループホーム交流会に参加している。南区、緑区、天白区のグループホームで勉強会や意見交換会があり、会場は毎回持ち回りでい職員が参加している。また、近隣のグループホームに入居者と一緒に相互訪問し、ホームを振り返り、ケアの質の向上によりよい刺激となっている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅や病院を訪問し、本人や家族の思い、状況を把握している。その人の状態、状況、希望により3日～1週間、馴染みの関係ができるよう体験入居を行なっている。ホームの様子に少しでも馴染んでもらってから入居していただく。また、必要があれば他のサービス事業者との連携も図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者は日々の生活のなかで、一緒に笑ったり、昔の話を聞き涙することもある。入居者一人ひとりが、その人らしく生活していただけるようにできることは行ってもらい、できないところを職員は支援している。料理の得意な方には腕を振るってもらったり、梅干、らっきょうの漬け方を教えてもらっている。また、入居者が糖漬けをし食卓に出している。入居者から「ありがとう」と労いの言葉をかけてもらうこともある。入居者と職員の距離は近く、家族として接し支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前に本人や家族から、生活歴を把握し職員全員に伝えている。センター方式を活用することで入居者の日々の様子、暮らしぶりを総合的に把握するように努めている。入居者とコミュニケーションを取り、言動や表情から、希望や要望を汲み取るよう支援している。困難な場合は、日々の生活のなかより、喜んだことや楽しんだことを記録に残し、職員間で情報を共有している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族が日常生活の中で感じている思いや意見、要望を反映した介護計画を作成するため、センター方式を活用して、アセスメントを実施している。毎月行っているモニタリングや部署会と必要に応じて行う勉強会で、入居者が快適で自分らしい生活を送ることができるよう、職員がアイデアを出し合い、意見交換をしている。その結果をもとに、計画作成担当者が取りまとめ、本人、家族の現状や意向を大切にしながら職員の気づき、意見を反映させた介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の日々の状態を朝夕の申し送りで情報を共有し、毎月のモニタリングで話し合うと共に、センター方式など各種のシートを用いて「心身の情報シート」を作成し、全職員が入居者一人ひとりの状況を把握するよう取り組んでいる。3カ月毎にサービス担当者会議を行い、モニタリング資料や本人、家族の意向、協力医の所見などをもとに、入居者の担当職員が中心になって話し合い、介護計画の見直しを行っている。また、設定された期間に囚われず、入居者の状態及び本人、家族の要望の変化には関係者と話し合い、現状に即した見直しを行っている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を受けており、協力医療機関、看護師による24時間対応、受け入れが整っている。協力歯科医の定期健診があり、必要な方は予約して週1回の訪問診療を受けている。併設のデイサービス利用からの入居や、短期の利用など可能な限り対応したいと考えている。特別な外出支援として、入居者の希望で知人宅への送迎や、自宅への帰宅など柔軟な支援に取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム協力医の他に本人、家族が希望するかかりつけ医での受診も可能であるが、付き添いは原則として家族にお願いしている。かかりつけ医で受診した場合の状況や服薬などの情報は、家族から担当職員が受け、確実に把握するよう努めている。ホーム協力医による往診が2週間に1回あり、入居者の居室で行われている。緊急時には、職員が同行して受診したり、夜間の往診も可能でホームと協力医、看護師との連携が良好である。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針を定めており、重度化時や終末期の対応について、ホームとして入居者及び家族の要望に可能な限り応えていくことで、全職員が方針を共有している。入居時に重度化や終末期についての希望を聞き取り、入居後、初回の訪問診療時に家族も同席して、医師から重度化や終末期、緊急時の延命措置など、ホームができる範囲の説明をもらい、本人、家族の意向を確認している。こうした情報から、協力医や看護師と24時間連携体制が可能となっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居契約時に個人情報保護及び、入居者個人の情報の利用目的について説明し、項目ごとに同意書を交わしている。職員には、就業規則や個人情報マニュアルで規定しており、入社時にプライバシーの守秘義務に関する誓約書を交わしている。職員は、入居者の誇りやプライバシーを損ねる言葉づかいをしないよう配慮しており、さりげない言葉かけや対応に努めている。日々の記録は居間で見守りながら行い、記録は事務所内ロッカーに保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者には担当者が決まっており、個別のレクリエーションを行なっている。屋内だけではなく、喫茶店や買い物など外出も生活の一環として個別に支援している。できることは自分で行ってもらい、職員は手伝い程度にとどめ見守りを行なっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立作りから、下準備、調理、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。入居者の指導で漬物を漬けており、訪問時の昼食にぬか漬けが出された。また、ベランダのプランタで育った野菜を利用した献立もある。食事は職員も一緒に摂り、さりげなく介助している。入居者の希望から、職員と一緒に手作りのおやつを作り、ティータイムを楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は広く、車椅子で介助しながらもゆっくり入浴できるスペースが確保され、浴槽も2槽あり、気の合った入居者同士の入浴が可能になっている。入浴は毎日16時から18時30分頃としており、入る順番は決めず、お湯も張り替えている。また、職員はさりげない声かけで入浴を促すようにしている。季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯なども楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの得意なことや経験を考慮し、できることを見極め、シートに記載し活かせる場面作りに配慮している。季節の行事では、ひな祭りのおこし物や、正月のおせち料理を職員と一緒に作り、家庭的な雰囲気づくりに努めている。入居者が作品を作り年1回の法人内作品展や、南区主催の作品展に毎回出品し、家族や地域の方に見てもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望や体調、天候に合わせて近くの笠寺観音や、公園などコースを選びながら、ほぼ毎日散歩に出かけている。入居者と顔馴染みの店もあり、会話や買い物を楽しみ、支払いも自分でやっている。年数回のレクリエーションの他、1カ月に1~2回の外出や、モーニングに喫茶店へ行くなど、できるだけ外出の機会をつくるよう努めている。入居者が買い物を希望した時は、その都度出かけ個別支援に取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアについて、管理者、職員は理解しているが過去の経験から、入居者の安全と精神的なダメージ等とホームの防犯等を考慮し、家族の希望を受け、管理者と職員で十分話し合った結果、1階の玄関はオートロックで管理している。なお、2階ユニット玄関、事務所、ベランダは施錠されておらず、施設内の移動は自由にすることができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間の火災を想定した避難訓練を年2回（4月と9月）、デイサービスセンターと合同で入居者も参加して実施している。夜間を想定した訓練を考慮中である。ホームの訓練実施を回覧で地域住民に知らせることで、参加を呼びかけ、協力をお願いしたいと考えている。また、避難場所が小学校であることを職員は周知しており、防災用品は事務所に備え、備蓄食品は3日分を想定して倉庫に保管している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事量や水分摂取量は、チェック表にて全職員で把握している。居間のテーブルに湯茶が用意しており、入居者は自由に飲んでいる。食事はトロミや細かくするなど、入居者の状態に応じて提供している。献立は2～3日前に入居者と職員と一緒に立てている。食材は職員と一緒に買い物をし、入居者の希望する献立となっている。体重測定は毎週行い医師のチェックを受けている。		入居者と一緒に献立を考え、希望する好みの食事になっているが、栄養摂取量、栄養バランスなど専門的な観点から定期的にチェック、指導を受けることで、より良い献立になるよう期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いベランダには白いテーブルと椅子が置かれ、入居者が家族とお茶や喫煙を楽しんでいる様子が見られた。また、プランタに花や野菜を植えており、季節が感じられ入居者が水やりをしている。採光が工夫された明るい居間には、大きなソファがテレビを囲んで置かれている。居間の畳コーナーや廊下には、休憩ができるようソファが用意されている。階段ロビーや居間の壁には、入居者の作品や絵、習字などと共に、行事の写真が掲示され、家族と共に楽しんでいる様子がうかがえた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓がある居室には、クローゼットとテーブル、エアコンが備えられている。その他は、入居者が使い慣れた鏡台、椅子、時計などが持ち込まれ、壁には家族の写真や手書きの絵、季節を飾る作品など、自由に装飾されている。また、ミシンで「のれん」を作り居室入り口にかけている入居者もいる。エアコンのスイッチパネルの位置は、車椅子でも容易に操作できるよう、低位置に設けられている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。